

# 教育研究業績書

2018年05月14日

所属：健康・スポーツ科学科

資格：講師

氏名：田中 美吏

研究分野	研究内容のキーワード
スポーツ心理学、運動の制御と学習	プレッシャー、あがり、ストレス、知覚、リスク志向とリスク回避、思考、意思決定、注意、情動・感情、スランプ、イップス、メンタルトレーニング
学位	最終学歴
博士（学術）	広島大学大学院 生物圏科学研究科 博士課程後期修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. スポーツメンタルトレーニング上級指導士	2017年4月1日～現在	日本スポーツ心理学会認定
2. スポーツメンタルトレーニング指導士	2007年4月1日～2017年3月31日	日本スポーツ心理学会認定
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 新・スポーツ心理学	共	2015年9月30日	嵯峨野書院	伊達萬里子（編）・松山博明・田中美吏・三村 寛・高見和至 担当章 第2章スポーツスキルの制御と学習（pp. 10-31） 第3章スポーツスキルの効果的な学習法（pp. 32-57） 第9章スポーツにおける「あがり」（pp. 129-149）
<b>2 学位論文</b>				
1. プレッシャーが運動スキルに及ぼす影響	単	2008年3月		博士論文 広島大学大学院生物圏科学研究科博士課程後期
2. 一過性心理的ストレスがゴルフパッティングに及ぼす影響	単	2005年3月		修士論文 広島大学大学院生物圏科学研究科博士課程前期
<b>3 学術論文</b>				
1. 心理的プレッシャー下でのダーツ課題におけるサイズ知覚とパフォーマンス結果	共	2018年	体育学研究, 印刷中.	研究資料（査読あり） 田中美吏・柄木田健太・村山孝之・田中ゆふ・五藤佳奈
2. Increased corticospinal excitability and muscular activity in a lower limb reaction task under psychological pressure	共	2017年	Journal of Functional Morphology and Kinesiology, 2(2), 14.	Original article（査読あり） Tanaka, Y. & Shimo, T.
3. 心理的プレッシャー下における不安定場での立位姿勢制御：下肢筋活動と足圧中心からの評価	共	2016年	体育学研究, 61, 289-300.	研究資料（査読あり） 田中美吏・霜 辰徳・野坂祐介
4. Spinal reflexes during postural control under psychological pressure	単	2015年	Motor Control, 19, 242-249.	Research note（査読あり）
5. Psychological pressure facilitates corticospinal excitability: Motor preparation processes and EMG activity in a choice	共	2014年	International Journal of Sport and Exercise Psychology, 12, 287-301.	Original article（査読あり） Tanaka, Y., Funase, K., Sekiya, H., Sasaki, J., & Tanaka, Y.M.

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
reaction task				
6. 大学生スポーツ選手の競技不調時の特徴	共	2013年	近畿大学教養・外国語教育センター紀要（一般教養編），3，73-81	実践論文（査読あり） 田中ゆふ・藤井純一・田中美吏
7. 投球動作前の確率情報を伴う球種予測に顕在的・潜在的知覚トレーニングが及ぼす影響	共	2013年	スポーツ心理学研究，40，109-124.	原著論文（査読あり） 田中ゆふ・関矢寛史・田中美吏 平成26年度日本スポーツ心理学会最優秀論文賞受賞論文
8. プレッシャーが野球打者の予測スキルに及ぼす影響	共	2012年	近畿大学教養・外国語教育センター紀要（一般教養編），2，13-22.	原著論文（査読あり） 田中ゆふ・田中美吏・関矢寛史
9. Modulation of corticospinal motor tract excitability during a fine finger movement under psychological pressure	共	2012年	International Journal of Sport and Health Science, 10, 39-49.	Original article（査読あり） Tanaka, Y., Funase, K., Sekiya, H., & Murayama, T.
10. The influence of monetary reward and punishment on psychological, physiological, behavioral, and performance aspects of a golf putting task	共	2011年	Human Movement Science, 30, 1115-1128.	Original article（査読あり） Tanaka, Y. & Sekiya, H.
11. Multiple EMG activity and intracortical inhibition and facilitation during a fine finger movement under pressure	共	2011年	Journal of Motor Behavior, 43, 73-81.	Original article（査読あり） Tanaka, Y., Funase, K., Sekiya, H., Sasaki, J., & Takemoto, T.
12. 障害物回避の見積もり能力に関する発達障害児と健常児の比較	共	2011年	理学療法科学，26，105-109.	原著論文（査読あり） 島谷康司・関矢寛史・田中美吏・長谷川正哉・沖貞明
13. Effects of explicit and implicit perceptual training on anticipation skills of baseball batters	共	2011年	Asian Journal of Exercise & Sport Science, 8, 1-15.	Original article（査読あり） Tanaka, Y.M., Sekiya, H., & Tanaka, Y.
14. Factor analysis of the mechanisms underlying "choking under pressure" in sports	共	2010年	Asian Journal of Exercise & Sport Science, 7, 55-60.	Original article（査読あり） Murayama, T., Sekiya, H., & Tanaka, Y.
15. The relationships between psychological/physiological changes and behavioral/performance changes in a golf putting task under pressure	共	2010年	International Journal of Sport and Health Science, 8, 83-94.	Original article（査読あり） Tanaka, Y., & Sekiya, H. 2011年度日本体育学会奨励賞受賞論文
16. プレッシャーがボールバウンド課題に及ぼす影響	共	2010年	人間工学，46，102-110	原著論文（査読あり） 田中美吏・山本剛裕・関矢寛史
17. The influence of audience and monetary reward on putting kinematics of expert and novice golfers	共	2010年	Research Quarterly for Exercise and Sport, 81, 416-424.	Original article（査読あり） Tanaka, Y. & Sekiya, H.
18. 「あがり」の発現機序の質的研究	共	2009年	体育学研究，54，263-277.	原著論文（査読あり） 村山孝之・田中美吏・関矢寛史 2010年度日本体育学会奨励賞受賞論文
19. Postural control of children with developmental disorders	共	2009年	Journal of Physical Therapy Science. 21, 7-11.	Original article（査読あり） Shimatani, K., Sekiya, H., Tanaka, Y., Hasegawa, M. & Oki, S.
20. スポーツにおける「あがり」の原因帰属と性格の関係	共	2009年	人間科学研究（広島大学大学院総合科学研究科紀要I），4，1-9.	原著論文（査読あり） 木村展久・村山孝之・田中美吏・関矢寛史
21. プレッシャーが全身協応運動に及ぼす影響	共	2009年	スポーツ心理学研究，36，103-114.	原著論文（査読あり） 田中美吏・瓜本健助・村山孝之・関矢寛史 2010年度日本スポーツ心理学会優秀論文奨励賞受賞論文
22. くぐり動作における身体接触の実証的研究—発達障害児は物にぶつかることが多い—	共	2008年	理学療法科学，23，721-725.	原著論文（査読あり） 島谷康司・田中美吏・金井秀作・大塚 彰・沖 貞明・関矢寛史
23. Do children with developmental disorders have low gross motor abilities?: A comparison with normal children, using motor ability tests for young children	共	2008年	Current Pediatric Research, 13, 9-12.	Original article（査読あり） Shimatani, K., Tanaka, Y., Hasegawa, M., Oki, S., & Sekiya, H.
24. 時間切迫が運動スキルの遂行に及ぼす影響	共	2007年	体育学研究，52，443-451.	原著論文（査読あり） 村山孝之・田中美吏・菅井若菜・関矢寛史
25. ゴルフ競技におけるポジティブおよびネガティブ感情とパフォーマンスの関係	共	2007年	人間科学研究（広島大学大学院総合科学研究科紀要I），2，93-99	原著論文（査読あり） 田中美吏・関矢寛史

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
26. パートナーと運動課題を行うときの対人ストレスが運動スキルに及ぼす影響	共	2007年	広島体育学研究, 33, 33-41.	原著論文 (査読あり) 田中美吏・関矢寛史
27. 注意の変化およびプレッシャーが知覚運動スキルの流暢性に及ぼす影響	共	2007年	人間科学研究 (広島大学大学院総合科学研究科紀要 I), 2, 71-80	原著論文 (査読あり) 坂本佑次・田中美吏・関矢寛史
28. 一過性心理的ストレスがゴルフパッティングに及ぼす影響	共	2006年	スポーツ心理学研究, 33 (2), 1-18.	原著論文 (査読あり) 田中美吏・関矢寛史
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
1. 運動の制御と学習からのアプローチ: 理論と実践	単	2017年10月4日	2017年度日本スポーツメンタルトレーニング指導士会第12回関西支部研修会	分科会講師
2. 心理的プレッシャーとスポーツパフォーマンス—運動制御からの理解—	単	2015年8月26日	第66回日本体育学会 (国士舘大学、東京)	体育心理学領域キーノートレクチャー
3. 運動の制御と学習からのアプローチ: 理論と実践	単	2015年10月4日	第10回スポーツメンタルトレーニングフォーラム・イン・関西 I	分科会講師
<b>2. 学会発表</b>				
1. 投げの正確性—プレッシャー研究やイップス研究への援用—	単	2017年8月8日	第26回運動学習研究会 (東京学芸大学、東京)	口頭発表
2. Cognitive and neural mechanisms for perception of biological motion eliminated most kinematic information of gymnastics skills	共	2017年7月13日	The 14th ISSP (International Society of Sport Psychology) World Congress of Sport Psychology (Sevilla, Spain)	Poster presentation Kana Goto and Yoshifumi Tanaka
3. Disadvantageous height perception by high jumpers before the run under psychological pressure	共	2017年7月10日	The 14th ISSP (International Society of Sport Psychology) World Congress of Sport Psychology (Sevilla, Spain)	Yoshifumi Tanaka, Joyo Sasaki, Kenta Karakida, Kana Goto, Yufu M. Tanaka, and Takayuki Murayama
4. Implicit ability of expert baseball batters for distinguishing subtle changes in pitchers' arm movements in computer animations	共	2017年7月10日	The 14th ISSP (International Society of Sport Psychology) World Congress of Sport Psychology (Sevilla, Spain)	Poster presentation Yufu M. Tanaka, Tomoyuki Matsuo, and Yoshifumi Tanaka
5. ソフトボール選手の実態調査	共	2017年12月16日	平成29年度第2回関西体育心理学会 (大阪体育大学、大阪)	口頭発表 稲田愛子・田中美吏・柄木田健太
6. 心理的プレッシャー下でのダーツ課題におけるサイズ知覚とパフォーマンス結果	共	2017年11月5日	日本スポーツ心理学会第44回大会 (大阪商業大学、大阪)	ポスター発表 田中美吏・柄木田健太・村山孝之・田中ゆふ・五藤佳奈
7. 心理的プレッシャー下における力動的知覚	単	2016年9月9日	第25回運動学習研究会 (大阪体育大学、大阪)	口頭発表
8. 心理的プレッシャー下における姿勢制御機能—下肢筋活動と足圧中心からの評価—	共	2016年8月26日	日本体育学会第67回大会 (大阪体育大学、大阪)	口頭発表 田中美吏・霜 辰徳
9. Increased corticospinal excitability and muscular activity in a lower limb reaction task under psychological pressure	共	2015年6月4日	NASPSPA (North American Society for the Psychology of Sport and Physical Activity) 2015 conference (Portland, OR, USA)	Poster presentation Yoshifumi Tanaka and Tatsunori Shimo
10. 心理的プレッシャー下における運動制御機能—姿勢制御や対処法の研究—	単	2015年5月30日	平成27年度第1回関西体育心理学会 (近畿大学、大阪)	口頭発表
11. 心的動揺に対する姿勢制御機能	共	2015年3月2日	第23回運動学習研究会 (琉球大学、沖縄)	口頭発表 田中美吏・霜 辰徳・野坂祐介・関屋昂樹・島谷康司
12. 打撃に必要な瞬時予測能力は知覚トレーニングによって向上するのか?—意識・無意識に着目した学習効果の検討—	共	2015年12月12日	日本野球科学研究会2015	ポスター発表 田中ゆふ・関矢寛史・田中美吏

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3. 総説</b>				
1. バランスへの心理学的アプローチ	単	2017年	体育の科学, 67 (6), 415-421.	査読なし
2. スポーツ選手の「あがり」の対処法に関する実践的研究—パフォーマンスルーティンに着目して—	共	2017年	健康運動科学, 7, 9-14.	査読あり 柄木田健太・田中美吏
3. 心理的プレッシャー下におけるゴルフパッティング：症状と対処に関する実験研究	単	2014年	体育学研究, 59, 1-15.	査読あり
4. “あがり”とファインモーターコントロール	共	2011年	バイオメカニクス研究, 15, 167-173.	吉江路子・田中美吏・村山孝之・工藤和俊・関矢寛史
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. エンデュランストレーニングの科学—持久力向上のための理論と実践—	共	2015年8月2日	有限会社ナップ (NAP Limited)	翻訳書 第20章持久力の心理学, pp. 177-187 第22章健康のための持久力トレーニング, pp. 201-208を担当 長谷川 博 (監訳) 長谷川 博・中村大輔・安松幹展・桜井智野風・久保啓太郎・棚屋光男・伊藤静夫・相澤勝治・鬼塚純玲・田中美吏・安藤創一・加藤晴康 (訳者一覽)
2. リカバリーの科学—スポーツパフォーマンス向上のための最新情報—	共	2014年9月15日	有限会社ナップ (NAP Limited)	翻訳書 第5章リカバリーの心理学, pp. 49-58を担当 長谷川 博・山本利春 (監訳) 長谷川 博・山本利春・桜井智野風・中村大輔・田中美吏・山口太一・安松幹展・鬼塚純玲・依田珠江・笠原政志・太田千尋 (訳者一覽)
3. 福井県スポーツ選手の競技不安について	共	2014年	平成25年度福井県スポーツ選手の健康・心理・栄養面における実態について (報告)	報告書 田中美吏・勝木豊成
4. 福井県スポーツ選手の競技不安について	共	2013年	平成24年度福井県スポーツ選手の健康・心理・栄養面における実態について (報告), 15-29.	報告書 勝木豊成・田中美吏
5. 脊髄反射運動制御機構に対する感情および注意の影響	単	2013年	財) ミズノスポーツ振興財団2012年度スポーツ科学等研究助成報告書.	研究成果報告書 公開外部URL <a href="http://www.mizuno.co.jp/zaidan/ikagaku/josei_2010.aspx">http://www.mizuno.co.jp/zaidan/ikagaku/josei_2010.aspx</a>
6. プレッシャー下における運動制御の神経生理学的検討	単	2011年	(財) ミズノスポーツ振興財団2009年度スポーツ科学等研究助成報告書	研究成果報告書 公開外部URL <a href="http://www.mizuno.co.jp/zaidan/ikagaku/josei_2000.aspx">http://www.mizuno.co.jp/zaidan/ikagaku/josei_2000.aspx</a>
7. スポーツユニットにおける教育の現状と課題	単	2010年	人間環境科学 (帝塚山大学人間環境科学研究所紀要), 19, 103-115.	報告書
8. 心理的プレッシャーによってなぜ運動パフォーマンスが低下するか?—認知的側面と行動的側面の影響—	共	2008年	ヤマハ発動機スポーツ振興財団 (YMF S) チャレンジ研究助成報告書	研究成果報告書 田中美吏・三木ゆふ・村山孝之・三宅浩亮
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 心理的プレッシャー下における身体運動—力動的知覚とのインタラクション—	共	2016年4月現在	科学研究費補助金・基盤研究 (C)	研究代表者 連携研究者: 村山孝之氏 (金沢大学)・田中ゆふ氏 (近畿大学)・五藤佳奈氏 (武庫川女子大学) 直接経費370万円、間接経費111万円
2. 心的動揺に対する運動制御機構—姿勢制御機能と皮質脊髄路の興奮性の精緻な解明—	単	2013年4月20日～16年3月	科学研究費補助金・若手研究 (B)	研究代表者 直接経費340万円、間接経費102万円
3. 脊髄反射運動制御機構に対する感情および注意の影響	単	2012年4月～2013年3月	財団法人ミズノスポーツ振興会2012年度スポーツ科学等研究助成	研究代表者 助成金額100万円
4. 心的動揺に対する運動制御機構—脊髄反射回路の解明と非侵襲的脳刺激の導入—	単	2011年6月～2013年3月	科学研究費補助金・若手研究 (B)	研究代表者 直接経費350万円、間接経費105万円
5. プレッシャー下における運動制御の神経生理学的検討	単	2009年4月～2010年3月	財団法人ミズノスポーツ振興会2009年度スポーツ科学等研究助成	研究代表者 助成金額100万円
6. 心理的プレッシャーによってなぜ運動パフォーマンスが低下するか?—認知的側面と行動的側面の影響—	共	2007年4月～2008年3月	ヤマハ発動機スポーツ振興財団 (YMF S) チャレンジ研究助成	田中美吏 (研究代表者)・三木ゆふ・村山孝之・三宅浩亮 助成金額110万円

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
響一				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2014年	日本スポーツ心理学会最優秀論文賞（第3著者として）
2. 2011年	日本体育学会奨励賞（筆頭著者として）
3. 2010年	日本体育学会奨励賞（第2著者として）
4. 2010年	日本スポーツ心理学会優秀論文奨励賞（筆頭著者として）